

外国語活動、外国語(英語)

言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 単元を通して育成を目指す資質・能力と、目標を達成した児童生徒の姿を明確にし、言語活動を単元の学習過程に適切に位置付けて指導と評価の計画を作成する。
- ② 言語活動を行う際は、児童生徒にコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識させ、児童生徒自身が伝え合う内容や伝え方、使用する語句や表現について思考・判断できるようにする。
- ③ 英語使用の正確さや表現内容の適切さに着目しながら学習状況を把握し、必要な指導を行うとともに、改善に向けた方向性を示した上で再度言語活動に取り組めるようにする。
- ④ 児童生徒が学習状況に応じて、ALTとやり取りを行ったり、ICTを主体的に活用して情報や考えを発信・共有したりしながら学習に取り組めるようにする。

児童一人一人が自己の学習状況に応じて、「知識及び技能」の習得を目指す学習の例

小学校第6学年

単元名 “Let’s think about our food.”

◇単元の目標(一部)

オリジナルハンバーガーを説明する際に必要となる語句や表現等について理解し、それらを用いてコミュニケーションを図ることができる。【知識及び技能】

◇単元的主要な学習活動(全7時間)

【第1～3時】

○食材を表す英語を理解し、オリジナルハンバーガーの食材の産地についてやり取りを行う。

【第4～5時】

○オリジナルハンバーガーの食材の栄養素や特徴、こだわり等について伝え、聞いた内容について質問をする。

【第6～7時】

○絵やプレゼンテーションソフト等、提示方法を選択し、オリジナルハンバーガーを紹介し合う。

◇本時のねらい(3/7)

オリジナルハンバーガーの魅力を伝えるために、食材の産地について伝えたり、質問したりすることができる。

◇学習状況に応じて学習の重点と方法を考える場面

- ・ペアで食材の産地について「やり取り①」を行う。
- ・児童一人一人が、「やり取り①」を通して、自己の学習状況を知り、学習の重点と学習方法について考え、学習支援ソフトのシートに入力する。

<個別最適な学び>

- ・ICT機器を使用して各自の学習の重点と学習方法を全体で共有します。その際、本時のめあてに沿った学習の重点を紹介するなどして、学習の重点が本時のめあてを達成するたために適切なものとなるよう指導します。

ICT④

◇学習の重点に基づいて個別に学習する場面

- ・各自で教材(デジタル教科書や補助教材等)や学習形態(個人で、友達と、又はALTと等)を主体的に選択し、コミュニケーションに必要な表現の学習に取り組む。

<個別最適な学び>

- ・児童が異なる方法等で学習を進めることができるように、1人1台端末の使用を含めて、学習方法や教材等の柔軟な提供や設定を行います。

ICT④



友達と紙の教科書で



デジタル教材で

【異なる教材や形態等で学習に取り組む様子】

◇言語活動を通して表現を活用しながら習得する場面

- ・ペアで食材の産地について「やり取り②」を行う。
- ・友達の対話のよい点や教師のフィードバックを参考に、表現の改善を図る。

<協働的な学び>

- ・個別に学習した表現を用いて、再度、言語活動に取り組ませることで、それらの表現を正確に使用できるようにします。
- ・中間評価の場面を設けるなどして、児童同士体の対話のよい例を全体で共有したり、必要に応じてフィードバックを行ったりします。

単元における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

<個別最適な学び>

指導の個別化

学習状況に応じて重点的に取り組むことを決め、デジタル教科書や補助教材等の教材及び学習方法を選択してコミュニケーションに必要な表現を学習する。

学習の個性化

興味・関心に応じて、オリジナルハンバーガーの食材や特徴等の魅力を考え、既習の表現を使用して紹介文の内容を深める。

<協働的な学び>

言語活動において、各自で学習した表現を活用する中で、互いのよい点を参考にしながら、英語使用の正確さや表現内容の適切さを向上させる。

◇評価規準

オリジナルハンバーガーの食材の産地について、表現を正確に用いてやり取りすることができる。【知識・技能】(観察)